

明治初期出版の小学生用に使用された 人体構造に関する教科書について

島田 和幸

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経病学講座歯科応用解剖学分野

明治初期に出版された小学生を対象とした人体構造の教科書に関しては谷津(1977)が“顔”, “歯”に関する内容とその時代考証に関して報告を行っているがこれらの教科書の全体的な討論報告はなされていない。そこで今回は演者が所蔵している教科書で人体問答図解(生駒東太編 明治8年), 校正小学人体問答(上田文斉著 明治8年), 人身問答(江馬元齡著 明治8年), 小学人体問答図解(杉浦安五郎著 明治9年), 小学教授人体問答(松川半山編 明治9年), 幼学人体問答(堀野良平著 明治9年), 小学人体問答(中里亮編 明治9年), 人体部分名称誌(松岡操著 明治9年), 小学人体窮理問答(永田方正訳 明治9年)初学須知人体問答(西坂成一著 明治10年), 小学人体問答法(尾崎庸一, 富田昌言編 明治10年), さらに教師用としての人体部分問答(加藤勤編 明治8年), 小学人体問答定度(阿保友一郎著 明治10年)の計13冊について調査をおこなった。

これらは明治4年7月18日に文部省の設置に伴い明治5年小学校の義務化に伴いこれまで各地方, 地域で独自に行われていた教育をある程度統一化する過程の中での人体構造に関する教育の一環として明治8年から10年頃にかけて, 出版された書である。想像力を発揮させ, 言語力の増進, 暗記(印象)させることで知識の増加を得る目的効果のために「質問」形式の記載になっていることに特色がある。また同じ小学生用としての教科書であっても記載内容にもかなりの程度の差も認められる。

調査概要: 学童対象年齢にもよると思えるが明治8年出版書の中では生駒の書は人体外表部各部位の名称をユーモアな図と共に質問形式にされた本である。上田の書では全身の骨格, 内臓の位置や血管系や生理学的な質問にも及んでいる。江馬の書になるとさらに内容が詳細で脳神経, 感覚器系, 消化器系, 泌尿生殖系の内容などが加わり, 小学生用としては少し理解が困難な内容とも思える。加藤の書は官許版であり人体の外表からの名称理解を主とした指導書である。明治9年出版の堀野, 中里の書は全身についての記載がなされ, 特に中里の書はカラーによる人体の前, 後面, 骨格, 血管系及び内臓などの図も入ってくる。杉浦, 松川, 松岡の書はいずれも人体外部の解剖学的な記載だけである。阿保の書は教師用とされる書で学童に質問を行い, より教育効果をあげるのかを考えての記載であり同時に人体名称や医学用語の引用文献にまでおよんでいる。明治10年に出版の尾崎, 富田の書は人体の外部名称についての内容である。西坂の書は人体の外表, 骨格ならびに内臓についての内容も含んでいる。今回の調査で松岡の「人体部分名称誌」を除くすべては「問答」というタイトルがついている。しかしこの松岡の書も内容的には他の書と同様に問答形式の記載である。

観察結果: ①小学校低学年では, 人体外表の名称の記載を中心とした教育がなされ, 学年が高学年になるに従って骨, 筋, 内臓等の解剖およびそれらの器官の働き(生理学)の教育が行われた。②原本についてはほとんどの書が不明である。ただ永田の「小学人体窮理問答」はウィルソンのリードル第4巻から翻訳したものと記されている。③この時期では解剖に関する用語統が一なされていないために用語の変遷等を調査するのによい資料となる。また阿保友一郎の書は解剖・医学用語の出典などが記されているので用語の研究により価値のある書と考えられる。